

いま注目の 「英語教育」を探訪する

2011年4月より、全国の小学校において「新学習指導要領」が全面实施され、第5・第6学年で、年間35単位時間の「外国語活動」が必修となりました。

この外国語活動においては、「音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うこと」（文部科学省）を目標として、さまざまな活動が行われることが期待されています。半面、小学校教員に英語教育のスペシャリストは圧倒的に不足していることから、不安の声も高まっているのが現状です。

こうした中、早くから小学校教育に外国語科目を採り入れ、豊かな成果を収めているのが私立小学校です。それぞれの学校では、どのような観点から英語教育に取り組んでいるのでしょうか。魅力あふれる授業の一端をご紹介します。



学校紹介記事は p. 52 を参照

東京女学館小学校

低学年から英語に親しむ授業 高学年では海外研修も実施

世界という舞台に積極的に関わろうとする女性にとって、英語の能力は不可欠です。東京女学館小学校では、最先端の教育技術を駆使したカリキュラムを導入するとともに、国内と海外で英語研修を実施しています。

東京女学館小学校ではグローバル化の進む国際社会で活躍できる女性リーダーの育成を目指し、コミュニケーションの手段としての英語を身に付ける英語教育を実施しています。また、語学だけでなく、国際性を養うための体験学習を低学年から導入し、高学年では国内や海外での研修を行っています。

- 低学年** 歌やリズム遊びなどを通じて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみます。また、プリティッシュスクールと交流活動を行い、外国のお友達と仲良く遊びます。
- 中学年** ゲームや寸劇など様々な体験活動を通じて、楽しみながら英語を習得していきます。話す・聞く力に重点をおき、英語能力の基礎を育てます。また近隣の大使館を訪問し、その国の文化や産業、特色について学ぶなど異文化への興味・関心を高めます。
- 高学年** 寸劇、プレゼンテーション、英語劇などの活動を行い、文法や語彙の知識を高めます。読む・書く能力を養う活動も取り入れ、中学校の英語学習への準備をします。また、夏休みには海外や国内で英語研修を実施して児童の英語に対する意欲を高め、実践的な英語能力の育成を図ります。

